



報道関係者各位

2010年3月30日

太陽 ASG グループ

## 「中堅企業経営者意識調査」ストレス度に対する世界 36 カ国調査を発表

		ストレス度(%)*1		休暇日数*2
		2010	2006	2010
	中国	76	87	9
	メキシコ	74	58	7
	トルコ	72	58	11
	ヴェトナム	72	-	7
	ギリシャ	68	63	17
	スペイン	65	42	21
	日本	64	60	13
	マレーシア	63	65	9
	アイルランド	62	46	16
	台湾	60	89	7
	チリ	59	-	11
	ロシア	59	60	17
	アルメニア	58	-	15
	ボツワナ	58	74	10
	イタリア	58	40	17
	南アフリカ	57	65	40
	インド	56	57	11
	フィリピン	55	76	10
	アルゼンチン	54	48	17
	フランス	51	42	21
	ポーランド	51	46	15
	ベルギー	50	-	19
	米国	50	45	12
	シンガポール	45	67	12
	ニュージーランド	44	46	18
	ブラジル	41	-	13
	英国	41	43	19
	タイ	40	62	11
	ドイツ	39	50	20
	香港	39	69	14
	オランダ	38	43	24
	カナダ	36	48	18
	オーストラリア	35	48	15
	フィンランド	33	-	23
	デンマーク	25	-	23
	スウェーデン	23	24	22
	36カ国平均	56	57	14

### 要旨：

- ・ 36 カ国中、最もストレス度の高い国は中国
- ・ 日本の中堅企業経営者では、「経済情勢」が一番のストレスの原因に

太陽 ASG グループ(グラント・ソントン加盟事務所)は、2009年10月～11月にかけて実施した非公開企業を中心とする中堅企業経営者の意識調査の結果を公表した(従業員数100人～750人)。この調査は、グラント・ソントン加盟主要36カ国が実施する世界同時調査の一環である。

### 最もストレス度の高い国は中国

世界36カ国の中堅企業経営者に、現在のストレス度について尋ねたところ、半数以上(56%)が1年前と比べてストレスが高まったと回答。最もストレス度の高い国は中国の76%で、36カ国平均より20ポイント高かった。

2006年調査時には、急速な経済発展と体制の変化に直面していたアジア諸国のストレス度が高く、ヨーロッパと米国はストレス度が低い傾向であったが、今回の調査では、以下のとおりストレス度とGDP成長率の関連性が窺える。

### GDP 成長率が高くストレス度が高い国々

IMF(国際通貨基金)\*発表の2010年GDP成長率世界平均3.1%を上回る、中国(8.5%)、インド(6.4%)、ヴェトナム(5.3%)、トルコ(3.7%)、メキシコ(3.3%)など、GDP成長率が高い見込みの国々のストレス度は、中国(76%)、インド(56%)、ヴェトナム(72%)、トルコ(72%)、メキシコ(74%)であった。

### GDP 成長率が低くストレス度が高い国々

アイルランド(-2.5%)、スペイン(-0.7%)、ギリシャ(-0.1%)、日本(1.7%)、マレーシア(2.5%)などGDP成長率が低い見込みの国々のストレス度は、アイルランド(62%)、スペイン(65%)、ギリシャ(68%)、日本(64%)、マレーシア(63%)であった。

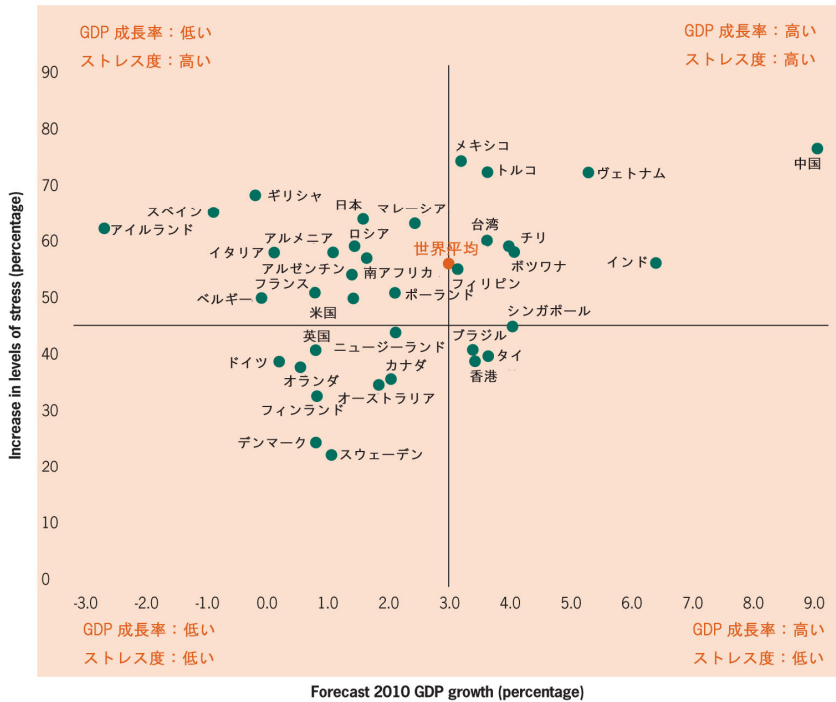
Source: Grant Thornton IBR2010

\*1: 1年前と比べて、現在のストレス度は現在どうなりましたか？との問いに対する「著しく増えた」「増えた」の回答の割合(%)。

\*2: 過去1年間で、何日間休暇をとりましたか？(土日祝祭日を除く。但し、土曜出勤企業の場合は、土曜含む)との問いに対する日数。

\*IMF Data Mapper®より引用: World Economic Outlook 2009 October  
<http://www.imf.org/external/datamapper/index.php>

## GDP 成長率とストレス度



Source: Grant Thornton IBR 2010, IMF 2009

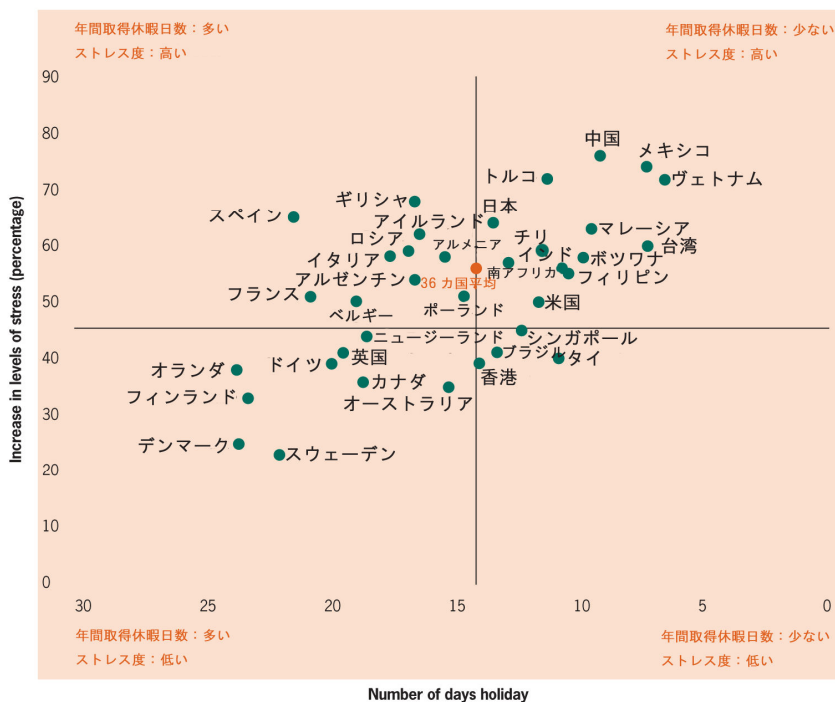
### GDP 成長率が高くストレス度が低い国々

GDP 成長率が高くストレス度が低かった国々は、シンガポール(45%)、ブラジル(41%)、タイ(40%)、香港(39%)などであるが、そのうち 2006 年に調査を実施したシンガポール、タイ、香港の 3 カ国は、2010 年は 2006 年より 20 ポイント以上ストレス度が低い結果となった。2006 年の GDP 成長率は、シンガポール(8.4%)、香港(7%)、タイ(5.2%)であったが、2010 年の GDP 成長率は、シンガポール(4.1%)、香港(3.1%)、タイ(3.7%)の予測である。

### GDP 成長率が低くストレス度が低い国々

GDP 成長率が低くストレス度が低かった国々は、スウェーデン(23%)、デンマーク(25%)、フィンランド(33%)、オーストラリア(35%)、カナダ(36%)、オランダ(38%)、ドイツ(39%)などであるが、これら 7 カ国の年間取得休暇日数平均は 21 日で、36 カ国平均の 14 日より 7 日多く、ストレス度と取得休暇日数にも関連性が見られた。

## 年間取得休暇日数とストレス度



Source: Grant Thornton IBR 2010

## 日本の中堅企業経営者のストレス度

日本の中堅企業経営者に現在のストレス度について尋ねたところ、1年前と比べてストレスが高まったとの回答が、2010年は64%と2006年の60%より4ポイント高く、36カ国平均の56%を8ポイント上回った。日本のGDP成長率は、2006年は2%であったが、2010年は1.7%の予測である。

また、1年間に取得した休暇日数は、36カ国平均の14日より1日少ない13日。ストレス度は、36カ国中7番目に高い結果となった。

職場でのストレスの原因について尋ねたところ（複数回答）、「経済情勢」（61%）、「競合他社の活動」（34%）、「雇用の維持」（31%）、「キャッシュフローに対するプレッシャー」（30%）、「事業承継」（18%）などを挙げている。

## 職場でのストレスの原因

	日本 (%)	36カ国平均 (%)
経済情勢	61	38
競合他社の活動	34	21
雇用の維持	31	7
キャッシュフローに対するプレッシャー	30	26
事業承継	18	8
品質維持	18	12
諸規制/役所の煩雑な手続き	12	12
コミュニケーションの増加(例 email/電話等)	11	10
仕事と私生活のバランスの対立	8	10
大量の仕事、オーバーワーク	8	19
店舗、事業所等の統廃合	8	3
内部対立/社内政治	7	10
将来の個人財産	4	8
海外進出	4	2
仕事におけるストレスは無い	4	7
その他	2	17
わからない	1	1

Source: Grant Thornton IBR2010

\*3: あなたにとって職場でストレスを引き起こす原因になっているものは何ですか? (複数回答可) の回答の割合 (%)

・36カ国平均での、上位3要因は、「経済情勢」「競合他社の活動」「キャッシュフローに対するプレッシャー」

・36カ国平均での、下位3要因は、「海外進出」「店舗、事業所の統廃合」「雇用の維持」

## 「中堅企業経営者の意識調査」ストレスに対する世界36カ国調査コメント

太陽 ASG グループ  
広報担当パートナー 田中 秀治

今回の調査結果から、GDP 成長率が高い地域であっても、低い地域のどちらであっても、様々な理由から経営者は強いストレスを感じている事が窺える。中国では、拡大の速度についていくことがプレッシャーである一方、経済危機に直面しているアイルランドやスペインでは、経営者は企業をどのように存続させるかがプレッシャーとなる。アイルランドやスペインでは、2006年調査時におけるストレス度は比較的低く2010年度で急増していることから、景気とストレスとの相関関係が窺える。

職場でのストレスの原因は、経済、社内、人事の3つの異なるグループに分類することができる。被雇用者はワークライフバランスなど個人的な要素に重点を置く傾向にあるが、経営者は、被雇用者以上にあらゆる方面からプレッシャーを感じている。日本の経営者のストレスの原因として、経済（経済情勢、競合他社の活動）に関するものと人事（雇用の維持、事業承継）に関するもの比率が、36カ国平均と比較して高いことが特徴的である。世界経済が回復基調にある中で、依然として国内経済の低迷が続き先の見えない状況であることがストレスとなり、またそのような状況でも人員削減を容易に行えない労働環境がストレスになるものと考えられる。

以 上

## 中堅企業経営者の意識調査ー概要

実施期間： 日本:2009年10月19日～11月27日、インターナショナル：10月上旬日～11月下旬

参加国数： 36カ国

(アジア太平洋地域) 日本、中国、香港、台湾、シンガポール、タイ、ヴェトナム、フィリピン、インド、マレーシア、オーストラリア、ニュージーランド

(EU) ベルギー、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、アイルランド、イタリア、オランダ、ポーランド、スペイン、スウェーデン、英国

(中南米) アルゼンチン、ブラジル、チリ、メキシコ

(その他) 米国、カナダ、ロシア、トルコ、アルメニア、南アフリカ、ボツワナ

調査対象： 7,400名の世界の的中堅企業ビジネスリーダー、または経営トップ

調査実施会社： 日本では株式会社日経リサーチが日本国内における調査を実施。36カ国同時調査の一貫性保持のため、国際的な調査会社である Experian Business Strategies Limited が取りまとめを行った。

調査方法： 日経リサーチ社所有の事業所データベースから、従業員数100～750人の全国の中堅・中小企業をランダムに5,000社抽出し、郵送によるアンケート調査を実施。298社の回答を得た。

分析手法： \*1: 1年前と比べて、現在のストレス度は現在どうなりましたか？との問いに対する「著しく増えた」「増えた」の回答の割合(%)。

\*2: 過去1年間で、何日間休暇をとりましたか？(土日祝祭日を除く。但し、土曜出勤企業の場合は、土曜含む)との問いに対する日数。

\*3: あなたにとって職場でストレスを引き起こす原因になっているものは何ですか？(複数回答可)の回答の割合(%)

グラント・ソントン インターナショナルでは「中堅企業経営者の意識調査」の回答1件につき、5米ドルをユニセフ(unicef)に寄付している。2010年度調査の寄付金は37,000米ドルを上回る予定。

## 太陽 ASG グループ (グラント・ソントン加盟事務所)

所在地： 東京都港区北青山1-2-3 青山ビル9F

代表： 本田親彦(公認会計士)

グループ会社： 太陽 ASG 有限責任監査法人、グラントソントン太陽 ASG 税理士法人、グラントソントン太陽 ASG 株式会社、株式会社太陽 ASG アドバイザリーサービス

URL： [www.gtjapan.com](http://www.gtjapan.com)

太陽 ASG グループは、世界100カ国、500カ所以上の拠点をネットする国際会計事務所「グラント・ソントン」の加盟事務所です。2006年1月1日付太陽監査法人と ASG 監査法人が合併し、新たに太陽 ASG グループを構成しました。国際水準の監査の他、オーナー系企業・中堅企業への各種業務・コンサルティングサービスの提供についてはトップクラスの実績を誇ります。

<太陽 ASG グループが提供する事業領域>

監査・保証業務、IPO、内部統制、公益法人・財団法人、アドバイザリーサービス、税務戦略・税務サービス、国際税務、企業評価・事業評価、M&A・コーポレートファイナンス、ファミリービジネス・事業承継、外資系企業サービス、財務業務管理システム

## グラント・ソントン

グラント・ソントンは世界第6位にランクされるグローバルな会計事務所グループです。オーナー企業および独立系企業を中心に監査、税務、その他会計コンサルティングサービスを提供しています。世界100カ国以上、500カ所以上の拠点、2,600名のパートナー、30,000人の従業員を擁します。各グラント・ソントンの拠点は、全世界で共通の高品質なサービスの提供にコミットしており、クライアントの全世界あらゆる場所におけるビジネスの展開をサポートします。

日本では太陽 ASG グループ(太陽 ASG 有限責任監査法人、グラントソントン太陽 ASG 税理士法人、グラントソントン太陽 ASG 株式会社、株式会社太陽 ASG アドバイザリーサービス)が、グラント・ソントンの日本メンバーとして世界水準を導入した会計コンサルティングサービスを提供しています。

## 本件に対する問い合わせ先

太陽 ASG グループ マーケティング・コミュニケーション 担当 藤澤清江

TEL: 03-5770-8855 FAX: 03-5770-8830 email: [t-asgMC@gtjapan.com](mailto:t-asgMC@gtjapan.com)